

6 都市防災の方針

(1) 基本方針

瀬戸内海に面した本市は、比較的穏やかな気候に恵まれた都市ですが、近年の台風や記録的な豪雨により、床上・床下浸水、土砂崩れ等の甚大な被害が発生しています。

また、岩国断層帯の存在や、南海トラフ地震等の発生が懸念されるなか、災害に備えた都市づくりは喫緊の課題です。

このような状況を踏まえ、災害の発生を未然に抑止し、また災害が発生した場合には、被害を最小限に抑えることが可能な都市づくりを進めます。

● 災害の発生を抑止する都市形成

豪雨や地震等の自然現象に対し、浸水被害や土砂災害の発生を起こりにくくするよう、計画的な市街地開発や防災施設の整備、河川等の治水対策を促進します。

● 被害を最小限化する環境整備

災害が発生した場合において、人的・物的被害を最小限にとどめ、その後の復旧活動を円滑に行うための都市施設や防災環境の整備を推進します。

● 多様な主体・手法による防災都市づくりの取り組み

住民、企業等と行政がそれぞれの役割を認識し、リスク情報の共有と連携を図りながら、多様な手法の組み合わせによる安全な都市づくりを進めます。

(2) 都市防災の方針

① 自然災害による被害の抑止・軽減

- ◆ 河川のはん^{らん}濫や内水等による水害を抑止・軽減するため、護岸整備や河道掘削*等による河川の治水機能強化、雨水流出抑制のための貯留・浸透機能の確保、雨水排水施設の充実、山林や農地の保水機能の維持を図るとともに、無秩序な開発の抑制を図ります。
- ◆ 土砂災害による被害を抑止・軽減するため、山地や丘陵地の保水機能の維持を図るとともに、被害防止のための対策の推進、土砂流出や土砂崩壊のおそれがある地区や過去に災害が発生した地区等における開発の抑制を図ります。
- ◆ 瀬戸内海沿岸部や河口付近については、津波や高潮等による被害を抑止・軽減するため、護岸の整備等を促進します。



平成17年9月の台風14号による錦川の増水

②災害に強い市街地の形成

- ◆ 老朽木造家屋が連担している地区等については、建物の更新や耐震化・不燃化、生活道路の拡幅や消火設備等の配置、延焼遮断を担う道路や緑地の整備等により、地震や火災に強い市街地づくりを進めます。
- ◆ 地震時における建築物等の倒壊を防止するため、『岩国市耐震改修促進計画』に基づき、老朽建築物や旧耐震基準の建築物の診断及び改修を進めるとともに、特に防災拠点となる公共施設や、避難路となる道路沿道の建築物の耐震性の確保に努めます。
- ◆ 災害時の避難や救助活動、救援物資の輸送等を迅速かつ円滑に実施できるよう、幹線道路網の整備を推進します。
- ◆ 防災学習の場としても活用できるいわくに消防防災センター等の整備や機能の充実により、医療・防災交流拠点の形成を推進します。



〈平常時〉



〈災害時〉

医療・防災交流拠点の整備イメージ図

- ◆ 避難施設の安全性を確保し、長期的な避難等にも対応できる体制を整備するとともに、安全な避難や救助に必要な経路を確保するため、細街路の拡幅や袋小路道路の解消を促進します。
- ◆ 防災行政無線の整備及び適切な維持管理・運用を図るとともに、緊急時における円滑な情報伝達の確保を図ります。

③情報の活用と防災体制の確立・強化

- ◆ ハザードマップ*等の防災情報の整備と周知を図るとともに、住民、企業、行政が各種のリスク情報を共有し、適切な役割分担のもと安全な都市・地域づくりに向けた多様な取り組みを推進します。
- ◆ 災害時に住民が安全に避難し、迅速な初動活動や適切な救助活動を円滑に行えるよう、情報提供や訓練等により住民の防災意識を高めるとともに、自主防災組織の育成・強化を図ります。
- ◆ インターネットやテレビ・ラジオ等の多種メディアと、防災行政無線、防災メール等を活用した、正確かつ迅速な災害情報の伝達を図ります。



総合防災訓練

7 地域特性を活かした都市づくりに向けて

中山間地、集落地、市街地等の多様な特性を有する本市においては、環境に配慮した地域循環型のシステムづくりを進めるとともに、地域間の交流、連携を活発にし、それぞれの地域特性を磨き上げ、どこに住んでいても住みよさを感じられるまちに向けたシステムづくりが必要です。

また、岩国錦帯橋空港をはじめとした、陸・海・空の交通利便性や情報通信技術の活用により、観光、産業等、多方面で県内外の都市と活発に交流する都市づくりを推進します。

(1) 資源やエネルギーが循環する都市

持続可能な都市づくりに向け、3Rの推進、自然エネルギーの利用促進、フードマイレージ*の削減、エコファーマー*の支援等、市内でエネルギーや資源が循環するシステムづくりを進めます。

環境負荷の少ない都市形成を目指し、市街地の拡散を防止し、市街地内の積極的な緑化、市街地周辺の自然環境の保全を図るとともに、鉄道やバス等の公共交通網の整備と活用、促進、徒歩や自転車等で移動しやすい交通環境の整備を図ります。

(2) 地域の産業が継続する都市

山・川・海の自然環境に恵まれた本市では、多様な地形を活かしたさまざまな生産活動が展開されていますが、第一次産業を取り巻く情勢は厳しさを増し、産業の維持・存続が喫緊の課題となっています。

一方、近年では、食料自給率の向上や食の安全性が特に求められるようになり、生産・流通・消費の良好なサイクルの構築が望まれています。

今後も、『岩国市農林業振興基本計画』や『岩国市水産業振興基本計画』の推進により、生産基盤や集落環境の維持・向上、新規従事者の育成・支援等の取り組みを進めるとともに、地産地消、特産物のブランド化、六次産業化*、食育の推進等による地域産業の振興を図ります。

また、第二次、第三次産業の分野においても、地域間での生産物の流通や消費促進等による地域活力の向上を目指します。



朝市

(3) 人々が循環する都市

地域循環型の都市の実現には、モノの循環に加え、都市部と農山漁村部で生活する人々の交流という“ヒトの循環”も不可欠です。

このため、道の駅等の交流拠点の活用、グリーンツーリズムや農林漁業体験等の促進、地域づくりの専門家やボランティアの派遣等、市内の人や物の交流を活発にすることにより、地域振興と人の育成を両軸とした都市づくりを進めます。

また、中山間地域では、『岩国市中山間地域振興基本計画』に基づき、生活環境基盤の整備や産業振興等に取り組むとともに、豊かな自然環境を活かしたIJUターン*の推進等、定住促進に向けた取り組みを進め、集落の活力維持を図ります。

本市の資源や魅力を広く発信するとともに、県内外の都市等との活発な交流及び企業誘致や観光振興等の施策を展開することにより、各地域の活性化を図ります。



体験交流行事（沢トレッキング）



IJU（移住）応援団の取り組み

(4) 地域資源や特性を活かした個性的で魅力ある都市

本市は、中国山地の山々、錦川に代表される清流、瀬戸内海等の豊かな自然に恵まれており、これらを活用して潤いのある空間整備や観光施設の整備・充実を図るとともに、錦川流域の地域間連携、観光・交流資源としてのPRと活用を推進します。

特に、世界遺産登録を目指す日本三名橋のひとつである錦帯橋や、錦川と城山、桜並木や吉香公園等の彩り豊かな自然、城下町に由来する歴史・文化が継承されている岩国城下町地区(岩国・横山地区)では、文化財の適切な保存管理とともに、良好な景観の保全・整備を推進し、多くの観光客が訪れる本市を代表する観光拠点として整備・活用を図っていきます。



日米フрендシップデー



錦帯橋と桜並木

また、米軍基地の所在する本市においては、日米フレンドシップデー等の各種イベントによる文化交流をはじめ、外国人住民や岩国に訪れる外国人が利用しやすい交通施設や観光施設等の整備を推進し、国際的な魅力のある多文化共生の都市づくりを目指します。

(5) 恵まれた交通機能や立地特性を活かした広域交流・連携都市

本市は、山陽自動車道岩国及び玖珂の2つのインターチェンジや、山陽新幹線新岩国駅を有し、さらに空の玄関口である岩国錦帯橋空港等、広域的な交通条件に恵まれています。

これらの交通機能と、山口県の最も東に位置するという立地特性を活かし、県内の他都市はもとより、隣接する広島県や島根県、更には福岡・北九州都市圏や関東方面の都市との交流・連携を図っていきます。

また、本市を代表する観光資源である錦帯橋及び岩国城下町地区(岩国・横山地区)と、広島市の世界遺産原爆ドーム、瀬戸内海に浮かぶ宮島等、瀬戸内エリアにおける観光地との広域的な連携を進め、国内外から多くの観光客が訪れ、交流する都市を目指します。



岩国港に寄港した大型クルーズ船